

## 地域教育のこれからと教師・学校の役割

10月27日(土)、北海道教育大学釧路校ESD推進センター主催シンポジウム「地域教育のこれからと教師・学校の役割」が開催されました。

シンポジウムでは、これからの学校や教師の役割とはどうあるべきか、浦幌町の学校と連携した全町的な地域教育活動の取り組みを事例に、地域と教育の関係を改めて問い直し、地域に根ざした教員の養成をめざす上での課題と展望を探りました。

外部講師として近江正隆氏(「うらほろスタイル推進地域協議会」会長)、中村吉昭氏(浦幌町立浦幌小学校校長)をお迎えし、「うらほろスタイルふるさとづくり計画」の学校内外の取り組みについてご紹介いただきました。また、地域教育開発専攻からは宮前耕史(地域教育開発専攻・准教授)が登壇し、地域教育開発専攻の浦幌町・「うらほろスタイル」と連携しての「地域に根ざした教師」養成の取り組みについて紹介を行なった他、添田祥史(同・講師)が司会をつとめました。

コメンテーターとしてお迎えした高木秀人氏(文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室長)と今泉博氏(北海道教育大学副学長・釧路校担当)からは、地域教育開発専攻の教員養成の取り組みについて、大変有意義なコメントをいただきました。

シンポジウムは学内外より約80名の参加を得て、学校は地域にとって資源でありまた希望であること、学校のこのような価値を再認識していくためにも、「学校の外」から教師・学校の役割を考えていく必要があることなどを確認し、盛会のうちに終了しました。



近江正隆氏



中村吉昭氏



高木秀人氏



会場風景①



会場風景②



会場風景③



会場風景④



質疑討論①



質疑討論②



質疑討論③